

第3回産業日本語研究会・シンポジウム


2012年2月29日

東京大学情報学環・福武ホール ラーニングシアター

産業日本語に関する動向報告



山崎誠(国立国語研究所)



- 1. はじめに
- 2. 産業における取り組み
- 3. 行政における取り組み
- 4. 学界における取り組み
- 5. 海外の取り組み
- 6. まとめ

1. はじめに

- 産業日本語の活動に関連する国内外の取り組みを紹介し、とくに国内の取り組みについて言語学的観点からの提言を行う。

1. はじめに

- コミュニケーションの向上を目指して言語を制限する。
 - 要素の数の限定（常用漢字表など）、
 - 同一概念を表す複数の要素の統一（送り仮名の基準など）
 - 異なる表現への言い換え
- 扱う要素の数と組み合わせが多くなればなるほど複雑になる。

- 1. はじめに
- 2. 産業における取り組み
- 3. 行政における取り組み
- 4. 学界における取り組み
- 5. 海外の取り組み
- 6. まとめ

2. 1. テクニカルコミュニケーター協会

- テクニカルコミュニケーター協会は、製品やサービスの取扱情報を扱う専門家の団体である。
- 1992年設立。
- 『取扱情報』の品質向上によって誰もが安全かつ簡単に最新の技術を利用することができ、仕事や生活の質を高めることができる社会の実現を目指す。

2. 1. テクニカルコミュニケーター協会

- 主な活動内容
- TC技術検定、シンポジウム、セミナー、日本マニュアルコンテストの実施
- 出版活動(『日本語スタイルガイド』、機関誌「Frontier」の発行)
- 学術研究、受託研究。

『日本語スタイルガイド』第2版



『日本語スタイルガイド』第2版 目次

- 第1編 文書作成における説明技術
 - 第1章 さまざまな実用文
 - 第2章 日本語スタイルガイドとテクニカルライティング技術
 - 第3章 文書として仕上げるテクニカルコミュニケーション技術
- 第2編 日本語スタイルガイド
 - 第1章 文法、用字・用語、表記を理解する
 - 第2章 読みやすく書く
 - 第3章 誤解されないように書く
- 第3編 テクニカルライティング技術の要点
 - 第1章 情報理解に基づきコンテキストを組み立てる
 - 第2章 読み手のことを考えたライティング
 - 第3章 文章の完成度を高め安定させる
- 第4編 テクニカルライティング技術の基礎
 - 第1章 表現設計の基本を知る
 - 第2章 構造化に配慮して文書进行設計する
 - 第3章 ツールを活用して作業効率を高める
 - 第4章 コンプライアンスに配慮する
- 付録 漢字とひらがなの使い分け
 - 外来語(カタカナ)表記ガイドライン
 - 改定常用漢字表
 - TC技術検定について
 - TC技術検定3級試験例題

2. 2. 報道機関

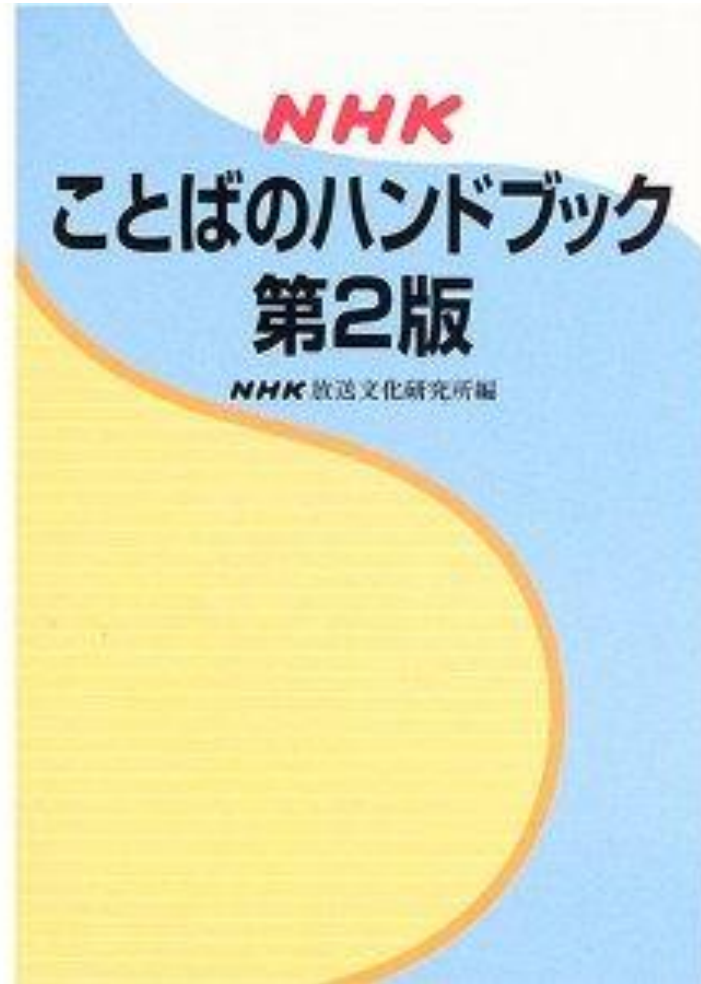
- 新聞社・通信社は用語委員会などの組織を持つ。
- 成果の一部は出版物として公開されている。
- 共同通信社『記者ハンドブック 新聞用字用語集』

『記者ハンドブック新聞用字用語集』第12版



- 「新聞漢字・仮名遣い」
- 「書き方の基本」
- 「用字用語集」
- 「記事のフォーム」
- 「資料編」

『NHKことばのハンドブック 第2版』



『NHKことばのハンドブック 第2版』章立て

- 「用語集」
- 「外国語・外来語のカナ表記－基本方針と原則－」
- 「外国語・外来語のカナ表記－用例集」
- 「外国語略語集」
- 「数字の発音」
- 「助数詞の使い方」

報道における用語の調整の例

- 「狂牛病」から「BSE」へ
- 「天然ダム」から「土砂崩れダム」「土砂ダム」へ

- 1. はじめに
- 2. 産業における取り組み
- 3. 行政における取り組み
- 4. 学界における取り組み
- 5. 海外の取り組み
- 6. まとめ

3. 1. 文部科学省、文化庁の取り組み

- 日本語の言語制限で大きな位置を占めてきたのは漢字政策(いわゆる国語問題)である。

『公用文の書き表し方の基準(資料集)』

- 第二次大戦後の日本語に関する法的資料を集めたもの



『公用文の書き表し方の基準(資料集)』 章立て

- 「外来語の表記 平成3.6.28」
- 「現代仮名遣い 昭和61.7.1」
- 「常用漢字表 昭和22.11.30」
- 「送り仮名の付け方 昭和48.6.18 昭和56.10.1一部改正」
- 「ローマ字のつづり方 昭和29.12.9」。

「公用文作成の要領 昭和27.4.4」

- 第2 文体について
 - 1 公用文の文体は、原則として「である」体を用いる。(以下略)
 - 2 文語脈の表現はなるべくやめて、平明なものとする。(注を省略)
 - 3 文章はなるべくくぎって短くし、接続詞や接続助詞などを用いて文章を長くすることをさける。
 - 4 文の飾り、あいまいなことば、まわりくどい表現は、できるだけやめて、簡潔な、論理的な文章とする。敬語についても、なるべく簡潔な表現とする。(注を省略)
 - 5 文書には、できるだけ、一見して内容の趣旨がわかるように、簡潔な標題をつける。また、「通達」「回答」のような、文書の性質を表すことばをつける。(注を省略)
 - 6 内容に応じ、なるべく箇条書きの方法をとりいれ、一読して理解しやすい文章とする。

3. 2. 国立国語研究所の取り組み

- 国立国語研究所
 - 1948年～2001年3月：国の機関
 - 2001年4月～2009年9月：独立行政法人
 - 2009年10月～：大学共同利用機関法人
- 国語研究所が言語政策的な活動を積極的に展開したのは独立行政法人時代。
- 言語問題グループによる、「外来語言い換え提案」「『病院の言葉』委員会」の活動。

『外来語言い換え手引き』



外来語言い換え提案の主旨

- 公共性の高い場面で外来語をむやみに多用すると、円滑なコミュニケーションに支障が生じる。
- 特に官公庁・自治体、報道機関などでは、それぞれの指針に基づいて、言い換えや注釈などにより、受け手の理解を助ける必要がある。
- この提案は、そのための基本的な考え方と基礎資料を、具体的に提供するものである。
 - (『外来語言い換え手引き』pp.16-17)

『病院の言葉を分かりやすく』の主旨

- 「国立国語研究所は、国民の言語生活をとらえる調査研究を行い、そこに問題が見つかれば、原因を突き止め、改善するための提案を行っています。言葉の分かりにくさが原因で、情報の伝達に支障が生じているとすれば、それは国民の言語生活にとって見過ごせない問題です。」
 - (前書きxii-xiii)

言い換えの特徴

- 言葉が伝わらない原因の分析に基づく類型を整理
- 類型
- ①患者に言葉が知られていない「病理(検査)」など
- ②患者の理解が不確か
 - 意味が分かっていない「炎症」など
 - 知識が不十分「熱中症」など
 - 別の意味と混同「貧血」など
- ③患者に心理的負担がある「腫瘍」など

言い換えのための基礎調査

- アンケートやコーパスに基づく調査結果を利用。
- 病院の言葉では、非医療者に対する認知率、理解率、誤解率などの調査を行い、結果を公表。
- 認知率と理解率の差の大きな語
 - 「ショック」「ステロイド」「川崎病」「肺水腫」「膠原病」など

3. 3. 外国人への日本語サービス

- 行政文書の言い換え
- 『外来語・役所ことば言い換え帳』(杉並区役所区長室総務課編、2005)
- 『外国人にやさしい日本語表現の手引|2006』(埼玉県)
- 『やさしい日本語活用冊子』(大阪府)
- 『在住外国人のための多言語生活ガイド』(兵庫県)

「やさしい日本語」への書き換え

- 増田(2011)による研究

公的文書の書き換えデータ比較

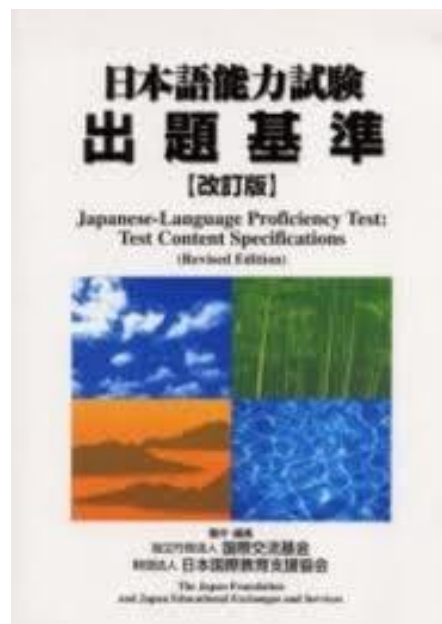
	総字数	一文の長さ	連体修飾率	名詞句の長さ	漢語使用率	異なり語数	JLPT 3・4級語彙率	高頻度語使用率
原文	6,756	31.1	14%	3.4	32%	903	34.5%	34.5%
大学生	6,128	24.6	17%	3.25	26.9%	745	35.5%	35.5%
日本語教師	6,039	25.9	18%	2.96	21.5%	651	36.8%	36.8%

- 日本語教師は少ない語数で、基本的な語を使用している。

- 1. はじめに
- 2. 産業における取り組み
- 3. 行政における取り組み
- 4. 学界における取り組み
- 5. 海外の取り組み
- 6. まとめ

4. 1. 日本語能力試験出題基準

- 学習者の能力を判定するための試験
- 現在は内容は非公開。旧試験は、『日本語能力試験出題基準(改訂版)』でおおその内容を知ることができる。



4. 1. 日本語能力試験出題基準

- 文字・語彙・文法（敬語を含む）について易しい方から順に4級～1級に分けてそれぞれの基準を具体的に示す。
- 文法項目の充実
 - あげく（困ったあげく） ことになっている（授業は4月7日から始めることになっている）
 - あっての（あなたあっての私） ないではおかない（攻撃しないではおかない）

4. 2. 専門日本語教育

- 専門日本語教育学会
 - <http://wwwsoc.nii.ac.jp/stje/>
- 「医学、法律、経済などさまざまな専門分野で研究する留学生および外国人研究者、実社会で働く人々に必要な日本語の運用能力とはどのようなものか、どのようにすれば運用できるか、シラバス、教授法はどうあるべきか、その評価はどうかなどを検討し、議論します。」

4. 2. 専門日本語教育

- 「専門日本語教育研究」Vol. 12 (2010)
 - 「カタログの日本語」
 - 「特許の日本語」
 - 「法の日本語」
 - インドネシア人介護福祉士候補者の能力評価の報告
- 第14回専門日本語教育学会総会および研究討論会
- 日時：2012年3月3日(土) 10:00～17:25
- 場所：一橋大学 国際研究館4F大教室

- 1. はじめに
- 2. 産業における取り組み
- 3. 行政における取り組み
- 4. 学界における取り組み
- 5. 海外の取り組み
- 6. まとめ

A Plain English Handbook – How to Create Clear SEC Disclosure Documents (1998)

- アメリカでの証券取引委員会が作成したもの。以下の12章、付録からなる。
 - Chapter 1 What Is a “Plain English” Document?
 - Chapter 2 Getting Started
 - Chapter 3 Knowing Your Audience
 - Chapter 4 Knowing the Information You Need to Disclose
 - Chapter 5 Reorganizing the Document
 - Chapter 6 Writing in Plain English
 - Chapter 7 Designing the Document
 - Chapter 8 Time-Saving Tips
 - Chapter 9 Using Readability Formulas and Style Checkers
 - Chapter 10 Evaluating the Document
 - Chapter 11 Reading List
 - Chapter 12 Keeping in Touch with Us
 - Appendix A Plain English at a Glance
 - The SEC’s Plain English Rules—an Excerpt
 - Appendix B Plain English Examples
 - “Before” and “After” Filings with Notes

Federal Plain English Guidelines

- 2011年3月、Federal Plain English Guidelines が示され政府の文書における英語の使用を分かりやすくすることが求められた。

- 1. はじめに
- 2. 産業における取り組み
- 3. 行政における取り組み
- 4. 学界における取り組み
- 5. 海外の取り組み
- 6. まとめ

6. まとめ

- 日本におけるコミュニケーションの円滑化を目指した言語制限の取り組みはもっぱら漢字の表記や語彙に関することであり、語を超えた言語単位である文や文章構成については殆ど考慮されてこなかった。とくに公的な取り組みが乏しい。
- それぞれの取り組みにおいて相互連携の姿勢がなく、独自に行われているため、社会全体にとっては非効率的な活動になっていると感じる。
- より充実したありかたを目指すためには、これらの活動を統括するような立場が必要であろう。

参考文献 URL

- U.S. Securities and Exchange Commission(1998),A Plain English Handbook – How to Create Clear SEC Disclosure Documents
<http://www.sec.gov/pdf/handbook.pdf>
- 一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会
<http://www.jtca.org/>
- NHK放送文化研究所編(2005)『NHKことばのハンドブック 第2版』
- 共同通信社編(2010)『記者ハンドブック 第12版 新聞用字用語集』
- 国際交流基金編、日本国際教育支援協会編(2007)『日本語能力試験 出題基準(改訂版)』、凡人社
- 国立国語研究所「外来語」委員会(2006)「『外来語』言い換え提案」
<http://www.ninjal.ac.jp/gairaigo/>
- 国立国語研究所「病院の言葉」委員会(2009)「『病院の言葉』を分かりやすくする提案」
http://www.ninjal.ac.jp/byoin/pdf/byoin_teian200903.pdf
- 専門日本語教育学会
<http://www.soc.nii.ac.jp/stje/>
- 中村慎一(2004)「専門用語の選択－BSE(牛海綿状脳症、狂牛病)という表記はどのようにして生まれたか」、第17回専門用語シンポジウム「日常語と専門用語のはざま マスコミからみた諸問題」予稿集、pp.14-19
- 増田麻美子(2011)「大学生と日本語教師による「やさしい日本語」への書き換え」『異文化コミュニケーションのための日本語教育』pp.385-386.